

SDGsアイデアコンテスト

-Share Study Project-

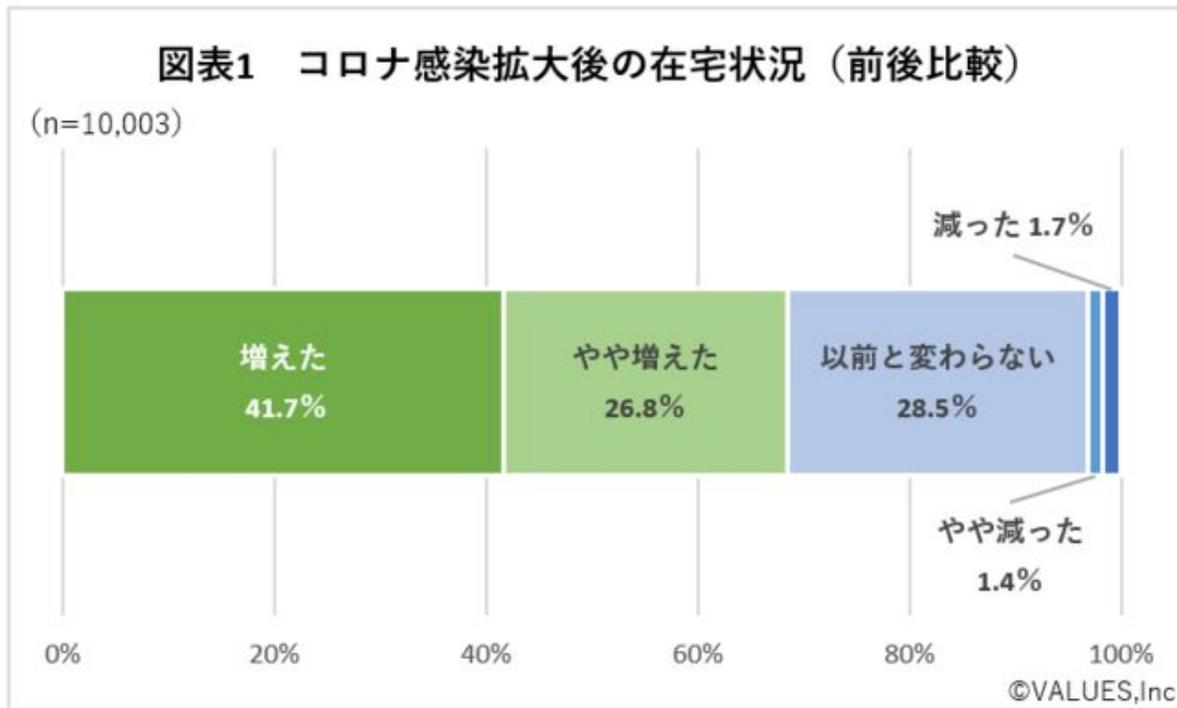
奥瀬義之ゼミナール(gt016)

大西航平 伊藤綾 塩澤千佳

I. はじめに

本提案の着想を得たきっかけ

コロナ渦で在宅時間が増加



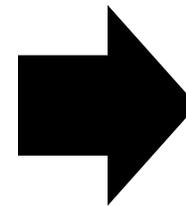
断捨離をする人の増加

図表7 在宅時間が増えて実践したこと（全体）

順位	在宅時間が増えて実践したこと	%
1	部屋や家の掃除・断捨離	27.99
2	自宅のできる運動（筋トレ・ストレッチなど）	22.85
3	料理・自炊	19.31
4	資格取得・勉強	8.40
5	部屋の模様替え	8.15
6	投資	8.06
7	ガーデニング・家庭菜園	7.75
8	裁縫・ハンドメイド	6.60
9	有料動画配信サービス	6.48
10	自宅のできる美容（脱毛・スキンケアなど）	4.12

(n=6,845 ※在宅時間が増えた人)

©VALUES,Inc



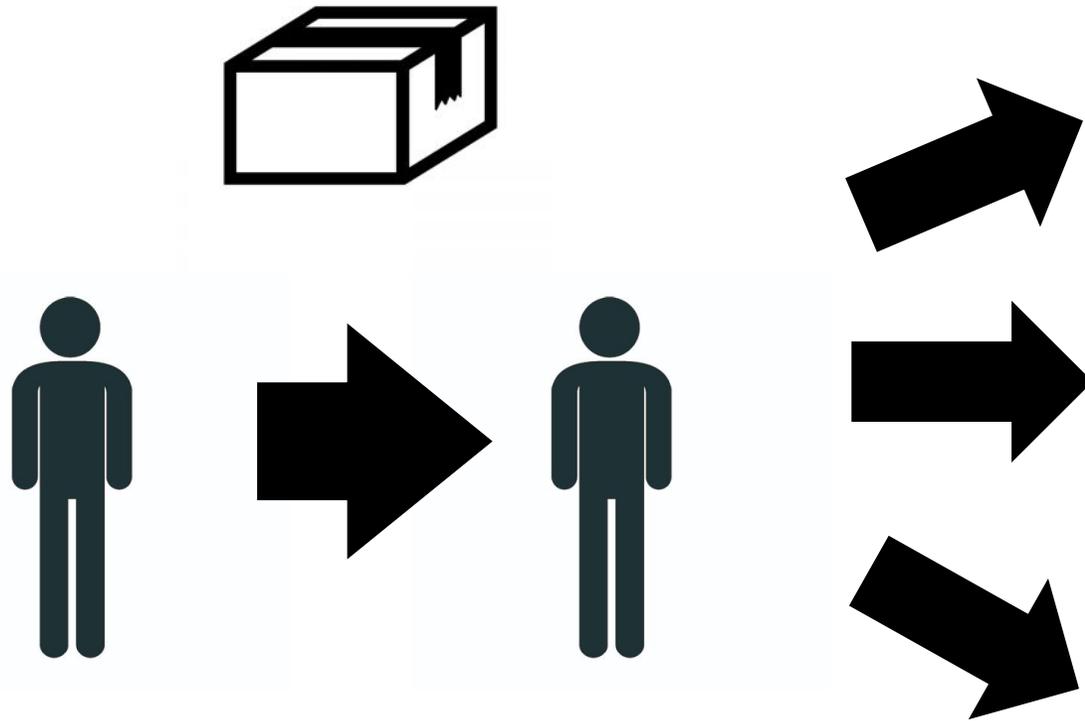
I. はじめに

II. 本提案が社会に及ぼ
しえる影響

III. 本提案が達成に寄与
するSDG

IV. まとめ

不要な物を引き取る



分配



資源の有効活用



I. はじめに

II. 本提案が社会に及ぼしえる影響

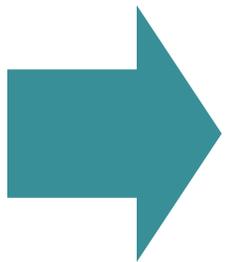
III. 本提案が達成に寄与するSDG

IV. まとめ



大学生の教科書

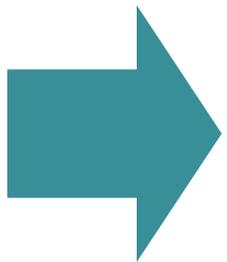
- 高校や中学よりも使用頻度は低い
- 書き込みが少ない
- 半年間しか使用しないため劣化は少ない



**使用後のものでも保存状態が良く、
教科書として十分使用できる。**

大学生の教科書

- ・一冊の値段が高い
- ・短期で買い換えを行う
- ・履修科目数と教科書の購入冊数は比例する



できるだけ多くの授業を受けたいと望む学生ほど負担が大きい

休校になった学齢期の子ども

約12億人

- ・学校閉鎖
- ・学費や制服、教科書の購入が困難
- ・IT環境へのアクセスが不十分
- ・家の手伝いが必要

教育危機の深刻化

Ⅱ. 本提案が 社会に及ぼし得る影響

ポジティブなアクションを引き出せると考える対象

1. 引き出せると考える対象

- ・お金のない大学生
- ・教育の機会のない発展途上国の子供

※お金のない大学生＝授業料や入学金を自分自身で支払っている大学生や親の経済力だけでは生活がままならないような者

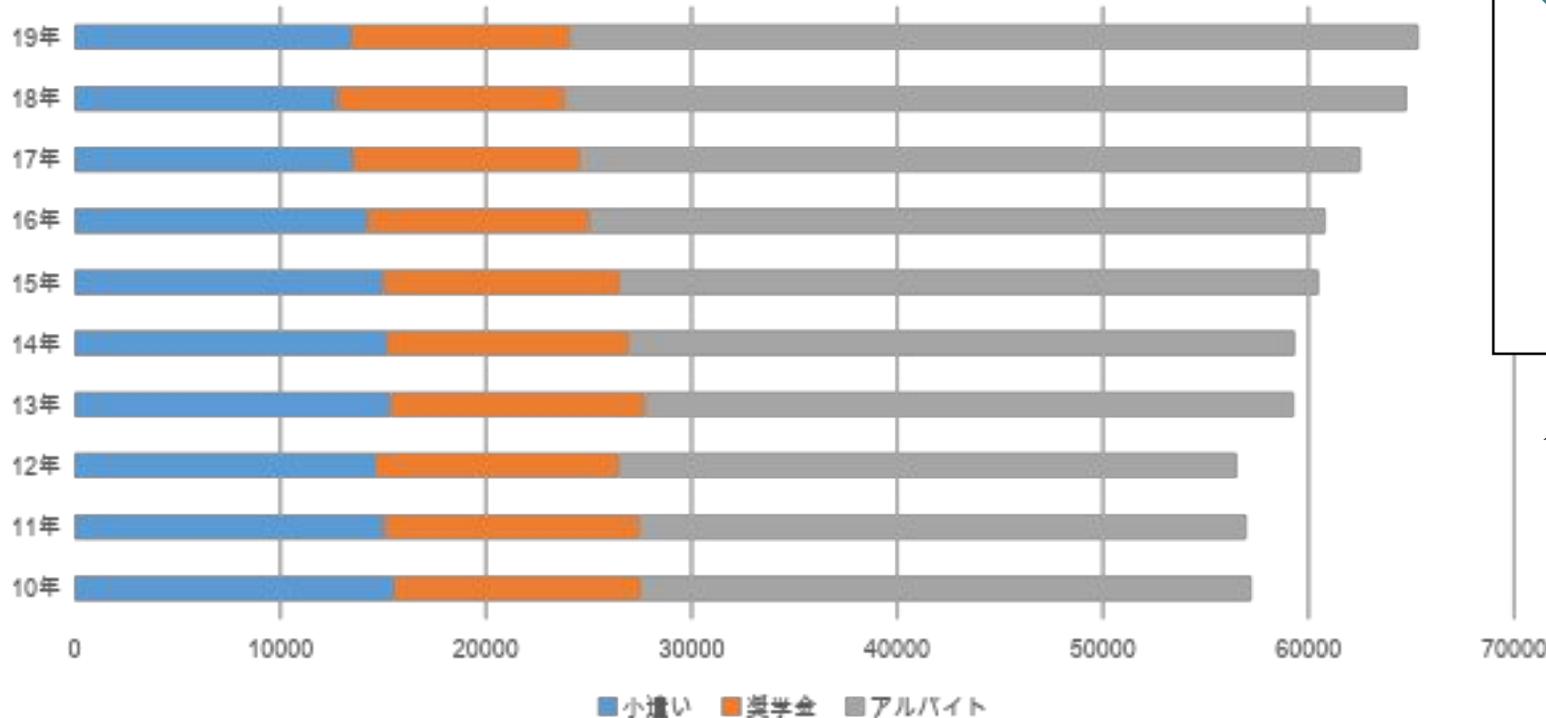
2. 社会に及ぼし得る影響

- ① 大学生の経済的な助けになる
- ② 発展途上国の子供たちに教育の機会を与える手助けになる
- ③ 大学生が使用する教科書を責任をもって大切に使うようになる

2. 社会に及ぼし得る影響

① 大学生の経済的な助けになる

大学生の1か月の収入(自宅生)



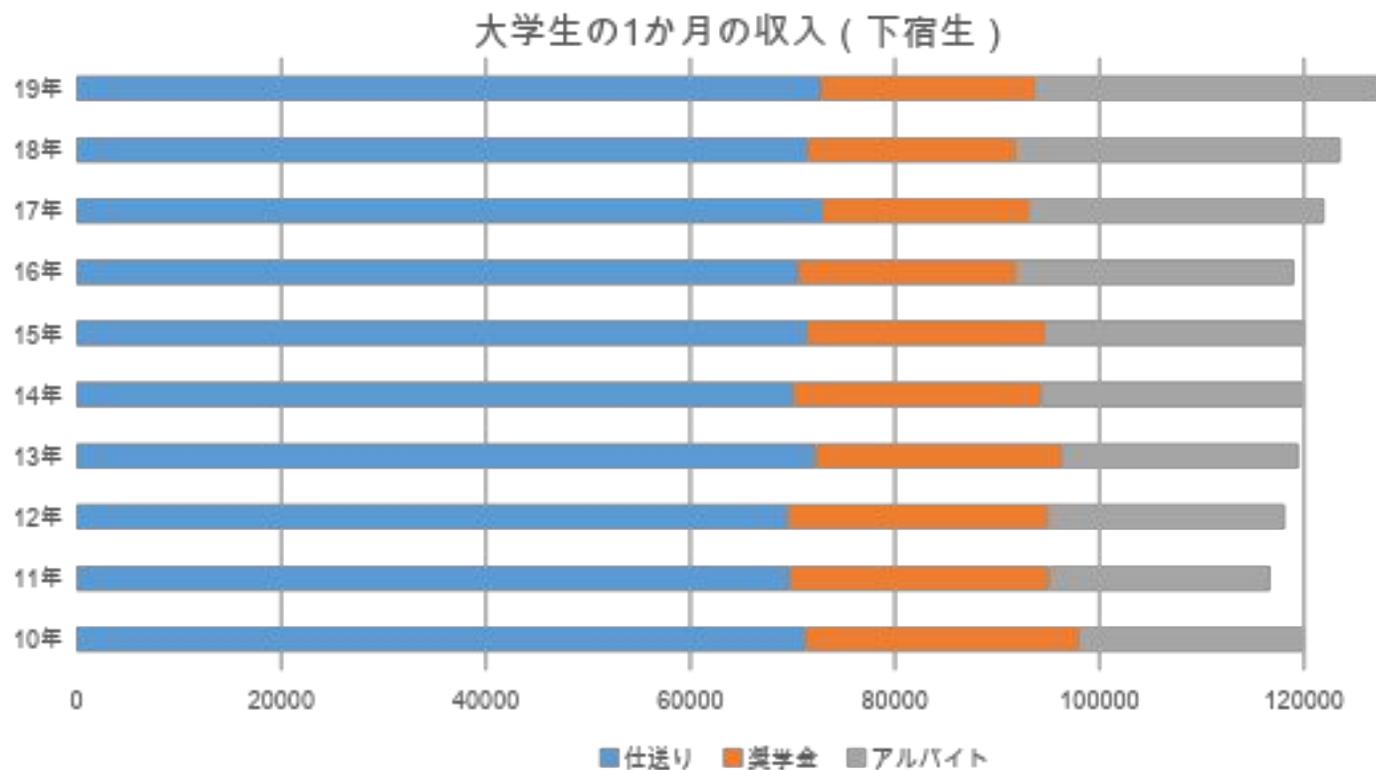
11540円
増加
アルバイトの収入

1350円減
少
奨学金

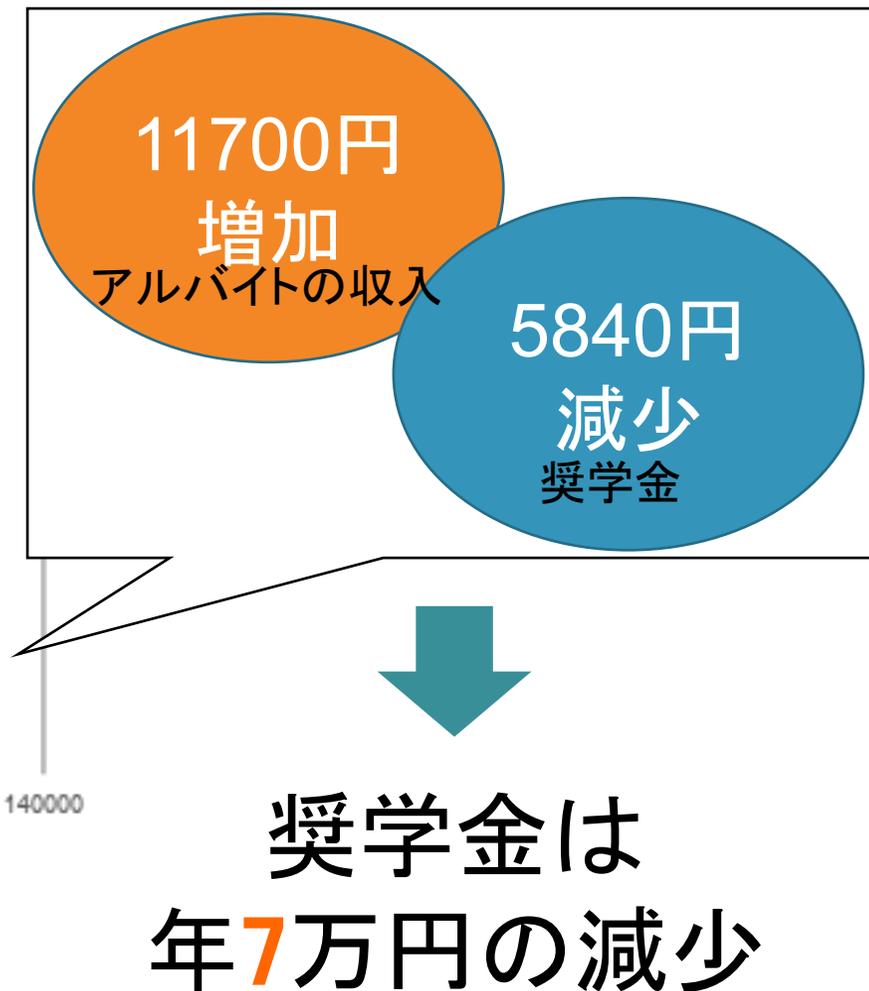
出典: 全国大学生生活協同組合連合会の「第55回学生生活実態調査概要報告」

調査実施期間: 2019年10月~11月 N=5274

2. 社会に及ぼし得る影響



N=5558



2.社会に及ぼし得る影響

〈分かったこと〉

アルバイトの収入増はお金のない大学生の助けになっている

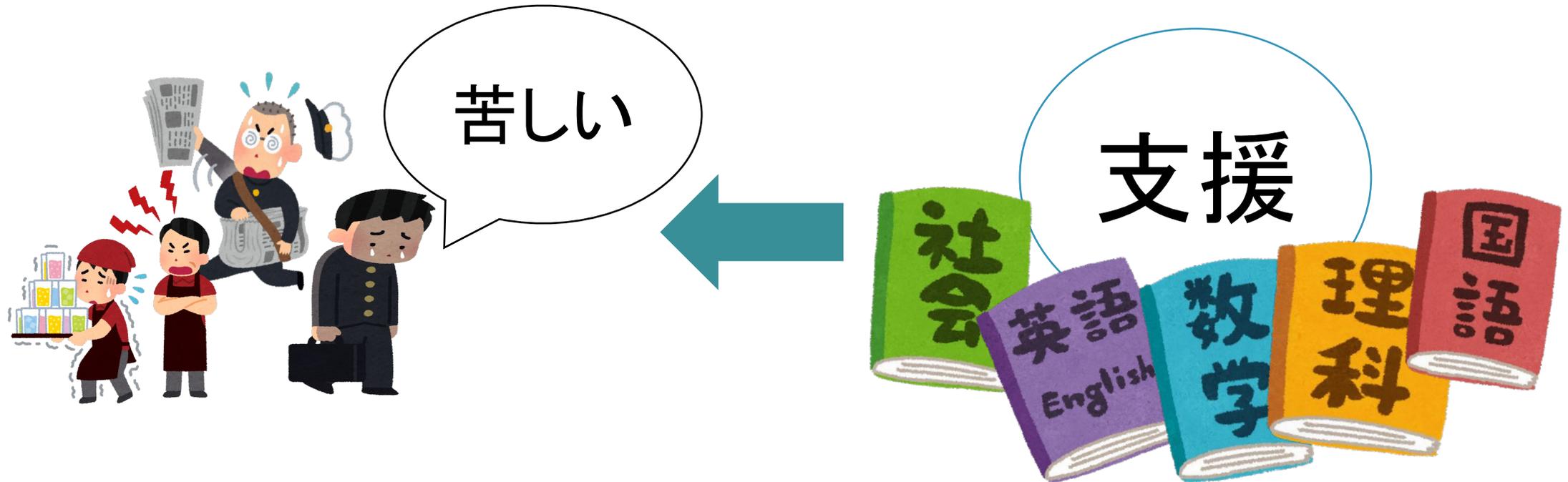
実際は……**奨学金の減少や出費の増加によって苦しい現状！**

ex)増税、高騰し続ける学費

2. 社会に及ぼし得る影響

1,2万円の教科書代は少額？

→お金のない大学生にとっては大きな出費



2. 社会に及ぼし得る影響

② 発展途上国の子供たちに教育の機会を与える手助けになる

教科書の利益を寄付

↳ **なぜ金銭面の援助？**

2. 社会に及ぼし得る影響

〈理由〉

子供の数に対し学校の数が不足している

学費や教材費が払えず学校に通えない

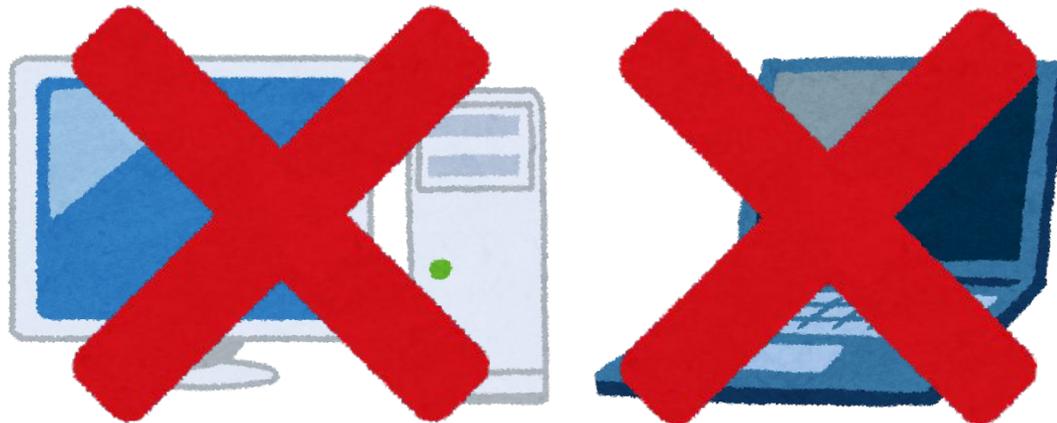
教育の質が悪くて十分な教育が施されない

2. 社会に及ぼし得る影響

コロナ禍という現状→教育格差が露呈

〈教育格差の例〉

リモート学習のための必要な技術や機材が家庭に備わっていない



2. 社会に及ぼし得る影響

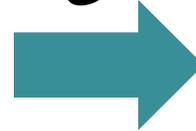
UNICEFの「Innocenti Research Brief」

デジタルデバイドを考慮した対応



(127か国)

しかし!



教育格差は露呈

2. 社会に及ぼし得る影響

〈デジタルデバイドとは〉

コンピューターを使いこなせる者とそうでない者の間に生じる格差



2. 社会に及ぼし得る影響

UNICEFの調査からわかる教育格差の原因

リモート学習できる環境下ではない

金銭面での援助



2. 社会に及ぼし得る影響

- ③ 大学生が使用する教科書を責任をもって大切に使うようになる

教科書 = 大学生が必ず触れる教育ツール

しかし



大切に扱う意識が足りない



2. 社会に及ぼし得る影響

これはSDGsの活動の一環だ

教科書は下の学年も使うものだ



一般化



モノを大切にする意識

Ⅲ. 本提案が 達成に寄与するSDG

達成に寄与するSDG項目

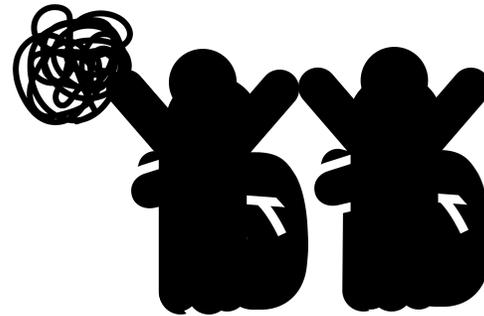


項目4「質の高い教育をみんなに」

専修大学の学生



発展途上国の子どもたち



→安価で教科書を販売

→NPO法人による教育支援や学校建設

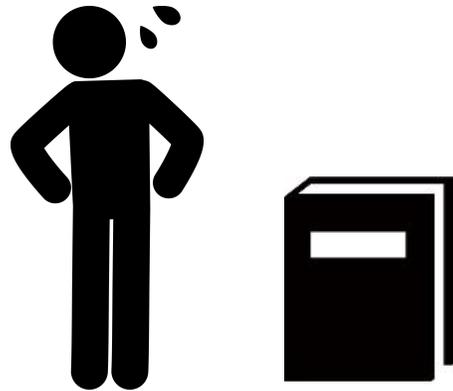
「質の高い教育をみんなに」提供

4 質の高い教育を
みんなに



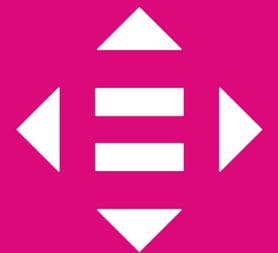
項目10「人や国の不平等をなくそう」

経済的に困窮している学生に、安価で教科書を販売

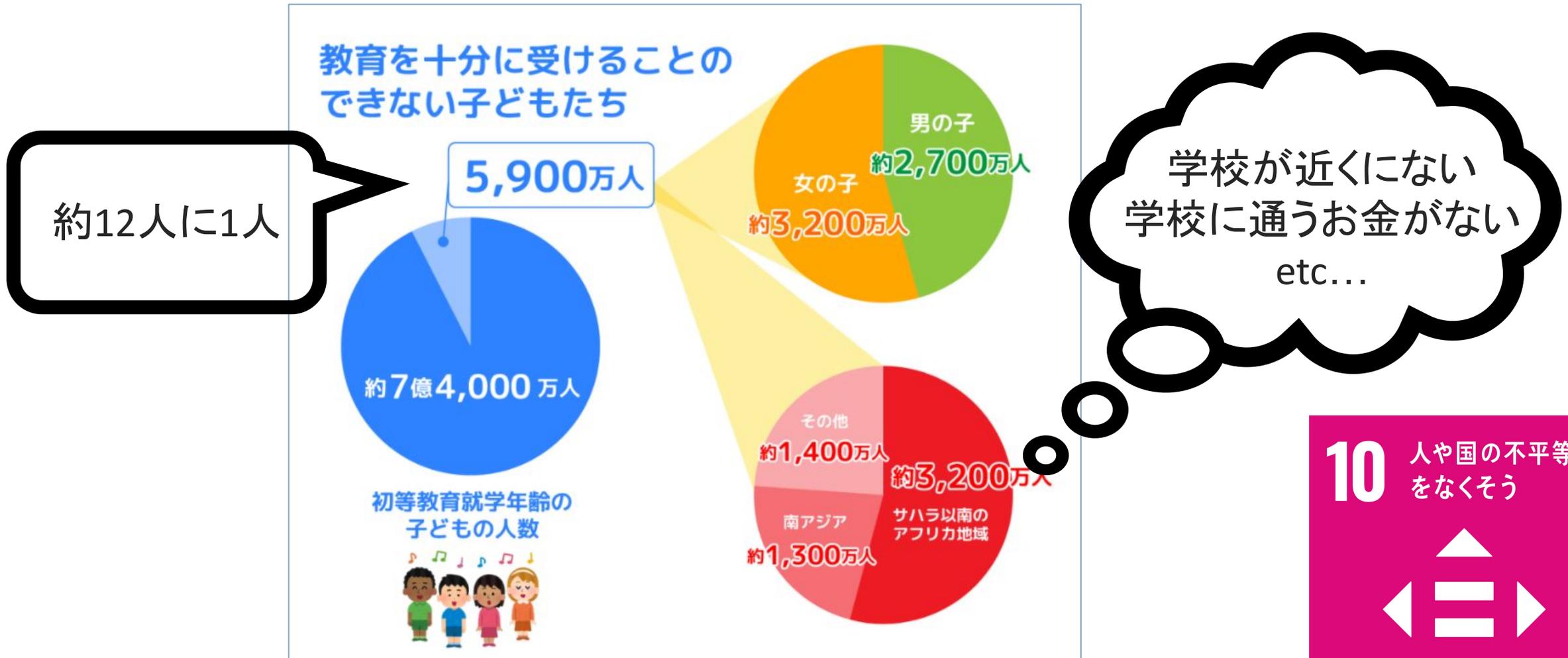


**環境や経済状況に関係なく、
平等な教育を提供**

10 人や国の不平等
をなくそう



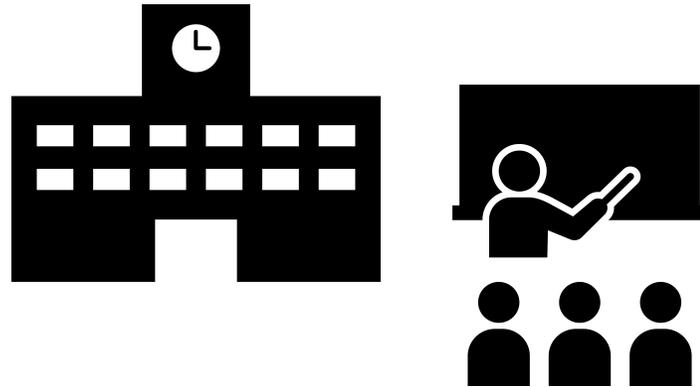
項目10「人や国の不平等をなくそう」



10 人や国の不平等をなくそう

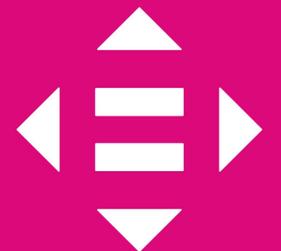
項目10「人や国の不平等をなくそう」

販売で得た利益を、
発展途上国の子どもたちの教育支援や学校建設に充てる



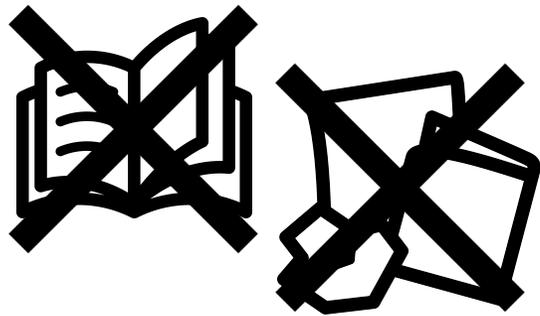
国による教育機会の「不平等」をなくす

10 人や国の不平等
をなくそう



項目12「つくる責任 つかう責任」

教科書を捨てずに学生に販売



→ごみの削減



→モノを大切に使う意識

教科書やモノ全般の「つかう責任」

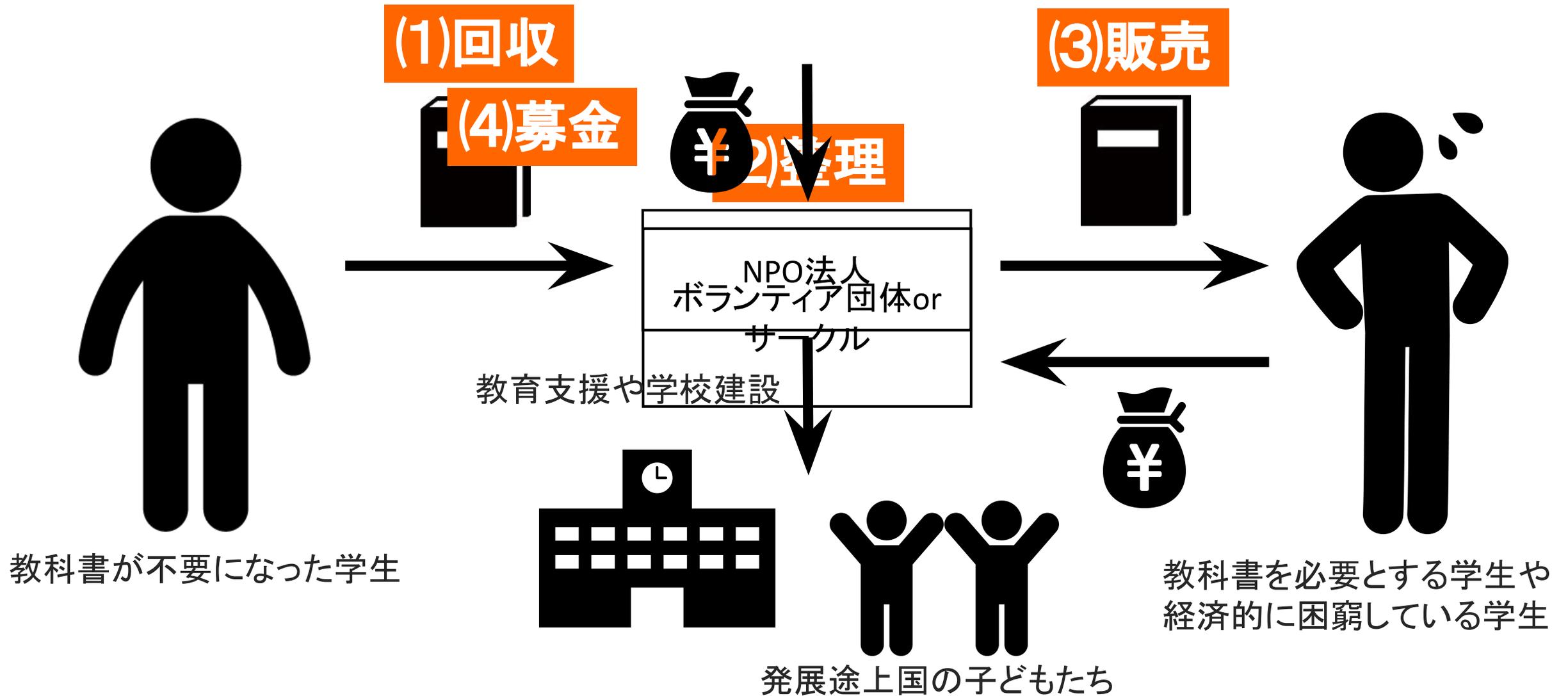
12 つくる責任
つかう責任



IV. まとめ

私(たち)が明日からできるアクション

全体の流れ



(1)回収

- Twitterや専修大学ポータルなどで事前に宣伝
- 各学期の1～2週間終わり(期末テスト期間)
- 校内に**回収ボックス**を設置
- 授業名、教員名、教科書の題名を記入するための回収票を用意
→回収票控えは各自学生で保管



(2)整理

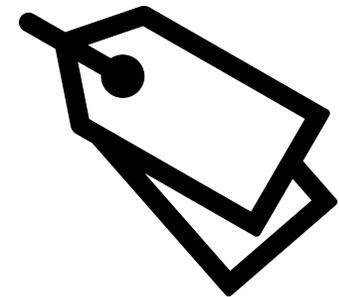
- 教科書の題名や科目名などで整理
- 保存状態に応じて販売価格を設定

Ex) 比較的綺麗で書き込みが少ない

→定価の半額

表紙やページが破れている、書き込みが多い

→定価の3分の1



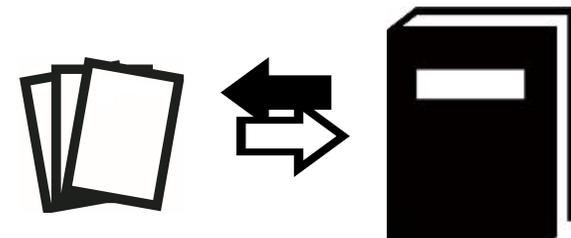
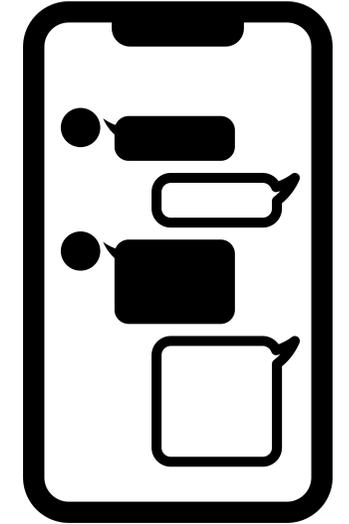
(3)販売

- Twitterや専修大学ポータルなどで事前に宣伝
- 各学期の1～2週間始め
 - 購買会の販売よりも前に実施することで、
少しでも安価で買いたい学生の需要を集める
- 大学のスペースを借りて対面での販売



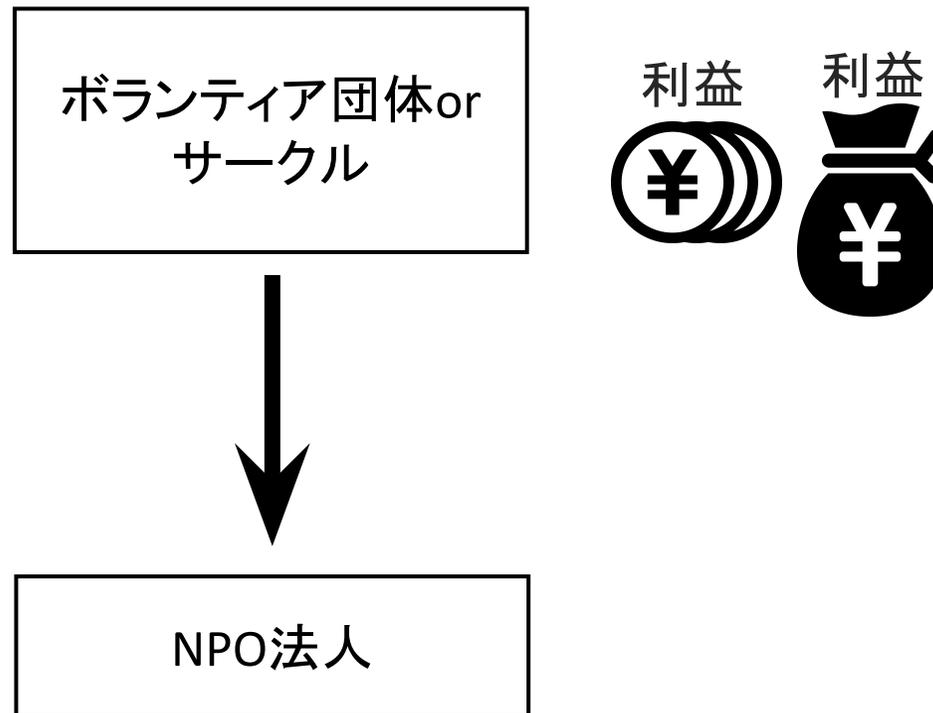
(3)販売

- コロナ対策として**SNSでの事前予約**
 - 販売する教科書の一覧、価格を公開
 - DMでのやり取り
 - 予約状況をこまめに更新
 - 受け取りの日時を決めて、会場の混雑や密集を避ける
- 回収時に渡した**回収票控え5枚**で**教科書1冊**を無料で販売
→教科書を提供した学生へのメリット
リピーターの獲得

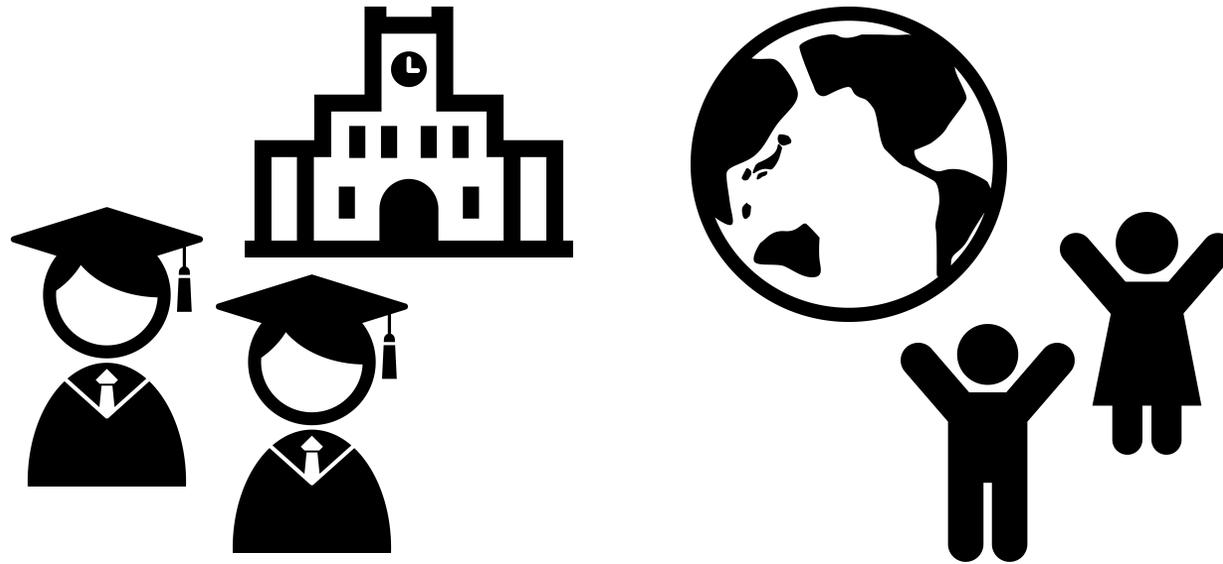


(4)募金

- 得た利益の一部または全額を**NPO法人**に募金
発展途上国の子どもたちの教育支援、学校建設を行う団体
- 継続的な活動のために、活動主体に利益の一部を還元



専修大学の学生から発展途上国の子どもたちへ
質の高い平等な教育と教育機会の提供



↓
「誰一人取り残さない」世界の実現

参考文献

- 株式会社ヴァリューズ(2020年)「PRTIMES【調査リリース】withコロナで変化する消費者意識を調査 増えた在宅時間を有意義に活用したい「自粛ポジティブ派」が約7割に」
〈<https://www.google.com/amp/s/prtimes.jp/main/html/rd/amp/p/000000030.000012167.html>〉
(2020年12月3日閲覧)
- 公益財団法人日本ユニセフ協会(2020年)「新型コロナウイルス子どもたちを分断する教育危機」
〈<https://www.unicef.or.jp/news/2020/0142.html>〉(2020年12月10日閲覧)
- 全国大学生生活協同組合連合会(2020年2月28日)「第55回学生生活実態調査概要報告」
〈<https://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html>〉(2020年11月6日閲覧日)
- UNICEF(2020年10月)「Innocenti Research Brief」
〈<https://www.unicef-irc.org/publications/pdf/IRB%202020-10.pdf>〉(2020年11月6日閲覧日)

ご清聴ありがとうございました